



Sur les crédençes, au salon vide: nul ptyx,  
Aboli bibelot d'inanité sonore,  
(Car le maître est allé puiser des pleurs au Styx  
Avec ce seul objet dont le Néant s'honore.)

東京大学 大学院 情報学環 学際情報学府 教授  
石田 英敬  
[www.nulptyx.com](http://www.nulptyx.com)

Interfaculty Initiative in Information Studies  
Graduate School of Interdisciplinary Information Studies  
The University of Tokyo



† このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

東京大学 学術俯瞰講義  
2012年度 夏学期講義

# 学際情報学

最終回



東京大学大学院 情報学環・学際情報学府

The University of Tokyo Interfaculty Initiative in Information Studies  
Graduate School of Interdisciplinary Information Studies

# 石田英敬

東京大学大学院情報学環・教授

<http://www.iii.u-tokyo.ac.jp>



東京大学 大学院情報学環・学際情報学府

# 藤幡正樹からの回答

Masaki Fujihata

## VOICES OF ALIVENESS

un espace pour crier - une collection de voix



✚ Masaki Fujihata  
<http://www.fujihata.jp/>

<http://www.youtube.com/watch?v=ytRv5xkUQ-Y>

## 質問

- ・学生からのコメントに対して、藤幡先生が「可哀想」と答えたのが非常にショックだった、多くの学生も同じ意見を持っていたと思う。その経験から性能や見返りを求めることに慣れすぎていて想像力を働かせることをしていないからだ痛感したのですが、その原因は日本の教育だけなのでしょうか。
- ・私は、情報技術が人間の想像を超えて進化しているので用いた技術が世界に定着しづらい様に感じます。そのような状況の中で、どのように新しいものの本質を捉えていくことができると思いますか。

上記2つの質問にたいして：

なぜ今現在のこの状態が生まれたのか、その原因を探ることが歴史を知ることだと思うのですが、そういう意味では「歴史」を教えられた記憶がありません。むしろ歴史はそこにすでに存在しているものとして扱われているために、暗記科目と化してしまったのではないのでしょうか？

例えば、なぜ今福島が起こったのか、その原因を探ることこそが歴史的想像力なのです。

しかし、それは、歴史だけではないでしょう。テレビはいったいなんのために作られたのか、コンピュータはなんのために作られたのか、インターネットとはいったい何者なのか？といった疑問がいくらかでも浮かんできます。特に、情報技術を資本化することによって進んできたここ50年余りは、この問題をなおざりにしてきたと思われれます。

技術は、科学認識論的立場から推進してゆけば、問題の解決が可能ですが、メディアの問題はそれを扱う者によって意味づけされてゆくものであるもので、むしろ存在論的アプローチが必要であると考えます。存在論的アプローチというのは、簡単にいえば、やってみて考えるというという立場ですが、ここで必要な力は分析力じゃなくて、想像力なんです。

## 質問

・藤幡先生の作品に対して日本人が興味を持ちにくいのは日本人の根本に宗教観がないからだと思う。曖昧な宗教観が、自分を固定し、自分と作品との関係を考える事を困難にしているのではないのでしょうか。

おっしゃる通り、日本における宗教観はさまざまな宗教のパッチワークでできていて、それぞれの時代によって適当（上手）に権力者に利用されてきたといえると思います。しかし、この問題は海外でもあまり変わらないと思います。

むしろ「藤幡先生の作品に対して日本人が興味を持ちにくい」のは、個人主義を乗り越えようとしている社会環境と関係があると思います。残念ながら日本は、民主主義を輸入した時に、しっかりと個人主義を根付かせることができませんでした。民主主義は、自分の力で考える個々人がいるという前提で設計されているものですが、その基盤が怪しい場合には、民主主義による政治は単なる通過儀礼になるでしょう。

さらにこの民主主義にも限界があって、それは資本主義とセットになった時に表れます。芸術は近現代では、個人主義のシンボルとして扱われ来ました。芸術は創造的な個人であるの表象だったんですが、それが売り買いされることで怪しくなってきたのです。はじめは創造的である対象をシンボルとして大切にすることから始まりますが、それが次第に「売れるんだから、創造的だ。」というテーゼに転換します。この考え方は、間違っています。だって、真に新しいものはそれが新しいかわからない可能性があるからです。売れるものは、すでに存在する何かに似ている必要があるんです。「クリシェ」である必要があるのです。

ところでこの「クリシェ」の極限が、日本文化に深く根ざしている、「ダジャレ」なんじゃないのでしょうか？

masaki+marc\_interview\_fragment - YouTube

さて、

最後の1時間弱で

**「情報と文化」について**

予備考察

「文字」について

# 1. 「人間」の発明

# 直立歩行

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

Régis Debray, *Le feu sacré : fonctions du religieux*, Fayard, 2003

"Introduction: Ecce homo" p.18, p.19

**直立によって  
可能になった**

**「人間」**

**の**

**「脳」の解放**

**「手」の解放**

**「顔」の解放**

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

アンドレ・ルロワ＝グーラン『身ぶりと言葉』荒木亨訳、ちくま学芸文庫、2012年  
p.79、8「さまざまな機能のタイプ」 e,f

原題：André Leroi-Gourhan  
LE GESTE ET LA PAROLE - TOME 1,2  
Albin Michael, 1964, 1965

**「ことば」**

**「身ぶり」**

**「表情」**

**「記号」**

**「技術」**

**「社会」**

# アンドレ・ルロワ＝グーラン

# André Leroi-Gourhan (1911-86)

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

アンドレ・ルロワ＝グーラン 『身ぶりと言葉』 荒木亨訳、ちくま学芸文庫、2012年  
p.79、8 「さまざまな機能のタイプ」 e,f

原題：André Leroi-Gourhan  
LE GESTE ET LA PAROLE - TOME 1,2  
Albin Michael, 1964, 1965

アンドレ・ルロワ＝  
グーラン  
『身ぶりと言葉』  
荒木亨 訳  
ちくま学芸文庫  
2012年

André Leroi-Gourhan  
*Le geste et la parole-*  
*TOME 2*  
Albin Michael, 1965

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

Ann Gibbons (2009)  
A New Kind of Ancestor: *Ardipithecus* Unveiled  
*Science* 326(5949): 36-40, p.36.  
<http://www.sciencemag.org/content/326/5949/36.full>

## 2. 「技術」と「文化」の発生

## 2. 「技術」と「文化」の発生

道具（前一定立 Pro-thesis)

伝承（後成的系統発生 épiphylogenèse)

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

アンドレ・ルロワ＝グーラン 『身ぶりと言葉』 荒木亨訳、ちくま学芸文庫、2012年  
p.476、108 「ナイフの進化」  
p.320、98a) b

原題：André Leroi-Gourhan  
LE GESTE ET LA PAROLE - TOME 1,2  
Albin Michael, 1964, 1965

### **3. 「文字」の発明**



+

Image by Prof saxx, from Wikimedia Commons (2013/9/13)  
[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lascaux\\_painting.jpg](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lascaux_painting.jpg)

## 記憶技術から文字へ

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

Tablet with Pictographic Inscription,  
Protoliterate Period, c.3300 BC

[http://www.bridgemanart.com/asset/65106/Tablet-with-pictographic-inscription-Protoliterate?search\\_context=%7B%22url%22%3A%22%5C%2Fsearch%5C%2Fcategory%5C%2FMiddle-and-Near-East%5C%2F1306%3Flang%3Den-GB%ni22%2C%22num\\_results%22%3A1597%2C%22search\\_type%22%3A%22category\\_assets%22%2C%22category\\_id%22%3A%221306%22%2C%22item\\_index%22%3A53%7D](http://www.bridgemanart.com/asset/65106/Tablet-with-pictographic-inscription-Protoliterate?search_context=%7B%22url%22%3A%22%5C%2Fsearch%5C%2Fcategory%5C%2FMiddle-and-Near-East%5C%2F1306%3Flang%3Den-GB%ni22%2C%22num_results%22%3A1597%2C%22search_type%22%3A%22category_assets%22%2C%22category_id%22%3A%221306%22%2C%22item_index%22%3A53%7D)に掲載。

André Leroi-Gourhan  
*L'Homme et la Matière*,  
Albin Michael, 1943

# 「正字 orthography」の時代

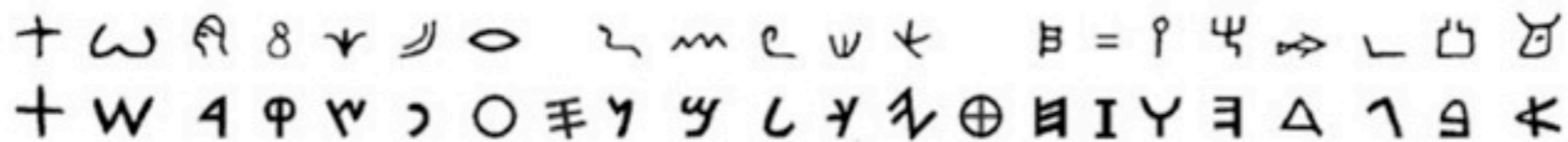
## Ortho-thesis (正-定立)



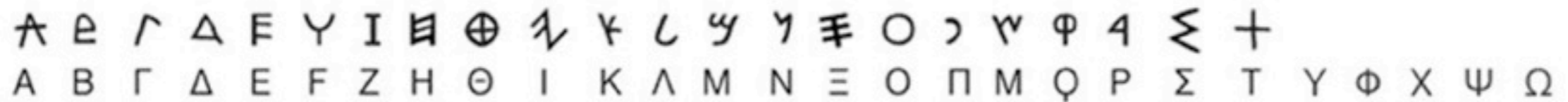
From pictography to the first cuneiform characters



From proto-Sinaitic to Phoenician: hieroglyphs give way to a limited set of letters



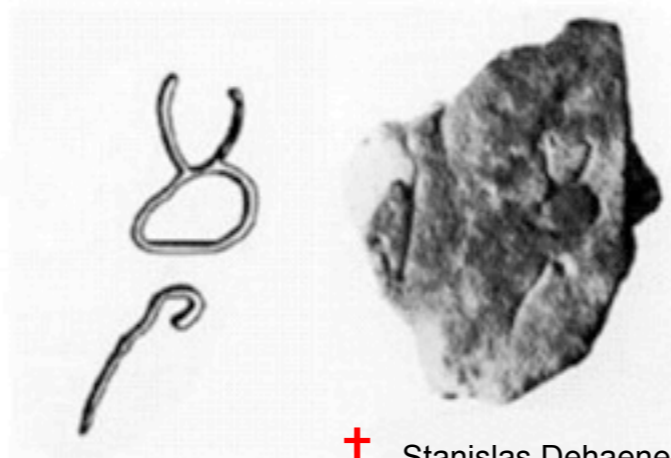
From Phoenician to Greek: letter rotation and emergence of vowels



Lascaux



Proto-Sinaitic



Phoenician



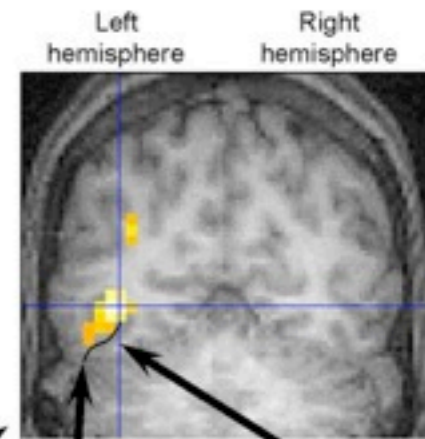
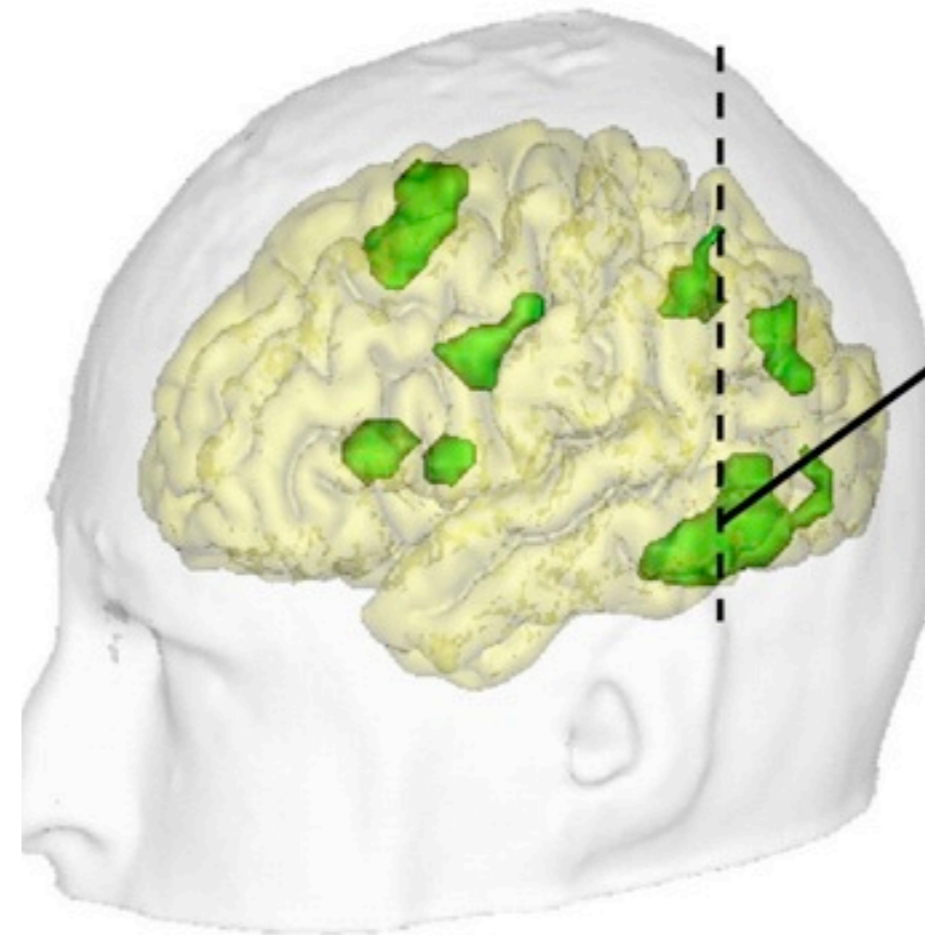
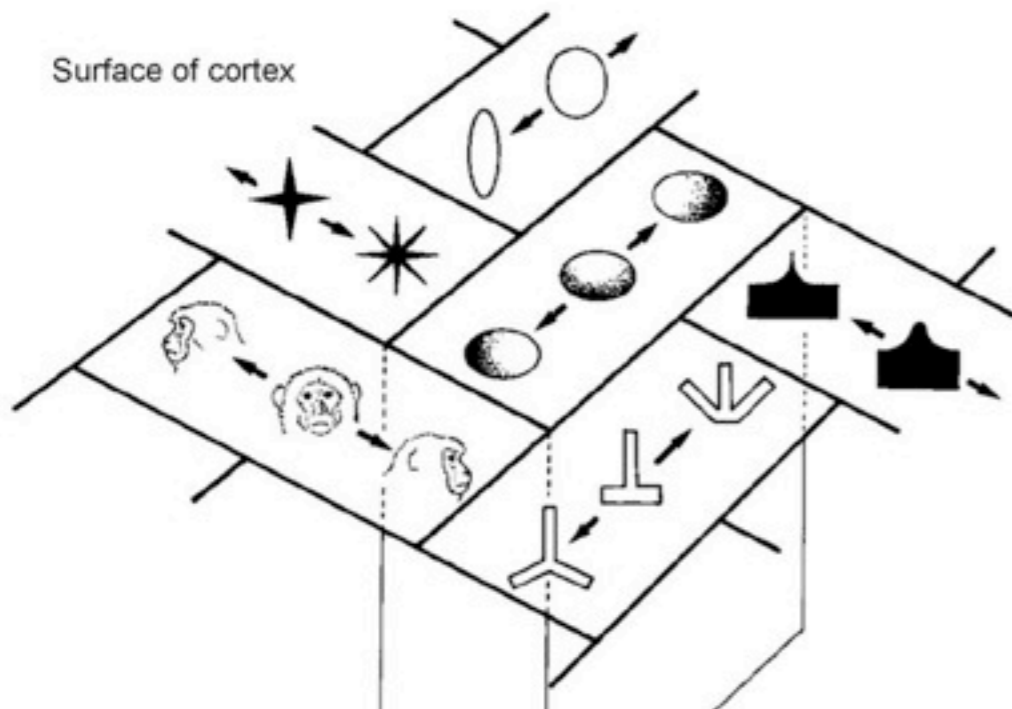
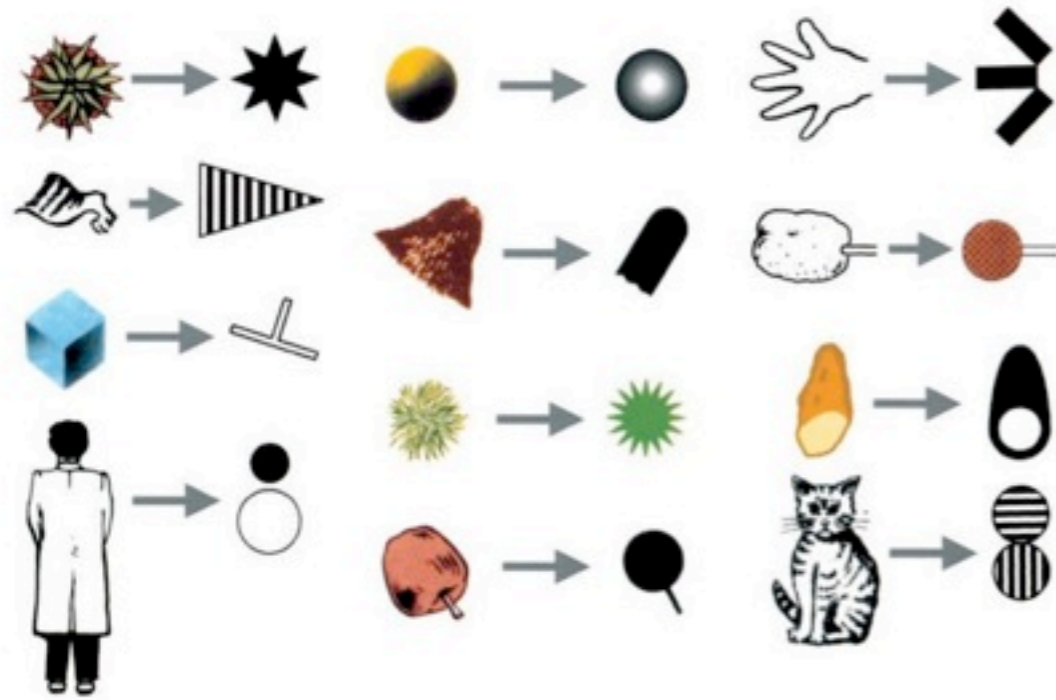
Greek / Latin



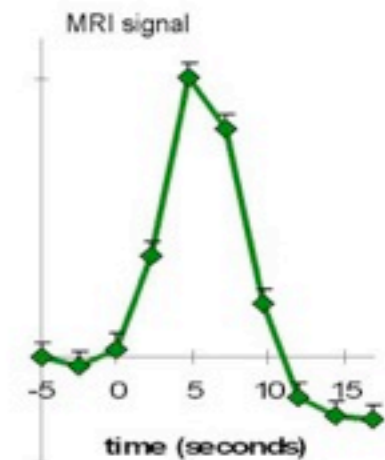
† Stanislas Dehaene, *Reading in the Brain*, Penguin Books, 2010, p.186 Fig.4.3  
<http://readinginthebrain.pagesperso-orange.fr/figures.htm>  
 Original from <http://terpconnect.umd.edu/~rfradkin/alphapage.html> by permission of Robert Fradkin.

Stanislas Dehaene:  
*Reading in the Brain:*  
*The Science and Evolution of a Human Invention*

Stanislas Dehaene,  
*Reading in the Brain,*  
 Penguin Books, 2010



Lateral occipito-temporal sulcus  
 Fusiform gyrus



† Stanislas Dehaene, *Reading in the Brain*, Penguin Books, 2010, p.71 Fig.2.4  
<http://readinginthebrain.pagesperso-orange.fr/figures.htm>

† Stanislas Dehaene, *Reading in the Brain*, Penguin Books, 2010, p.134 Fig.3.6  
<http://readinginthebrain.pagesperso-orange.fr/figures.htm>  
 Original from Keiji Tanaka(2003) Columns for Complex Visual Object Features in the Inferotemporal Cortex: Clustering of Cells with Similar but Slightly Different Stimulus Selectivities, *Cerebral Cortex* 13(1):90-99, p.91 Figure 1 and p.96 Figure 7 by permission of Oxford University Press.

## 4. 「本の発明」

**Codex 本**



+

## 5. 「ゲーテンベルクの銀河系」

# 「活字の物流」と「万有アーカイヴ」の形成

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

マウリッツ・エッシャー (Maurits Cornelis  
Escher) のだまし絵

そして、

6 「テクノロジーの文字の革命」へ

ここでやっとな私の研究

# 記号論について

知っている人はどれぐらい？

私は**記号論**を手がかりとしたメディアの研究に  
取り組んできました。

## **記号論**または**記号学**

(英語で**semiotics**または**semiology**)

という学問をひと言で説明するのは難しいのですが

人間の活動を**意味 (＝記号作用)** の観点から

考える学問のことだと、とりあえずは

言っておきましょう

# ●講義案内に書いてあること

研究	教官・学生紹介	講義案内	文献一覧
講演とシンポジウム	フォーラム	サイバー・インスティテュート	リンク

## 講義案内

SEMINARS

[講義案内](#) > [記号論](#)

### ●記号論「「意味」について考える」

この授業では、「記号論 Semiotics」という学問の流れを紹介しつつ、人間の「意味」活動について考えることを試みます。人間は、ことばを話す・聴く、文字を書く・読む、絵や図を描く・見る、映像や音声を受け取る・送るなどの活動をとおして、「意味」を作り出したり・送ったり・受け取ったりして生活しています。「意味」を生み出す要素が、記号論でいう「記号 Sign」です。それはより具体的には、人間のコミュニケーション活動を成り立たせているイメージや言葉や映像や音声などのことです。この講義では、私たちの日常生活のさまざまな現象に注目することで、「意味する動物」としての「人間」の「意味世界」とはどのような成り立ちをもっているのかを考えます。本年度は、記号論の基本理論を紹介したうえで、私たちの日常生活を取り巻いているメディア現象をどのように分析的に理解することができるのか考える手ほどきをします。

■授業のキーワード：記号論、記号学、メディア研究、情報学、意味批判、記号テクノロジー

- ・教養学部 総合科目
- ・講義曜限：夏学期 火曜日5限（16：20～）
- ・教室：522教室



チャールズ・サンダース・パース  
C.S. Peirce



フェルディナン・ド・ソシュール

記号論は現在、流行して**いません**

記号論は一度死んだ学問です

**記号論**はいま私が作り直している学問です

なぜかというと

**記号論**は死んだとしても、

私たちの**世界**や**生活**が**記号論化**したか

からです

# 例えば？

コンピュータは記号論マシンです  
テレビも記号論マシンです  
電話もそうです  
もちろんケータイも  
そしてi-Phoneだって...



著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

iPodの広告画像

[http://www.ew.com/ew/gallery/  
0,,20538989\\_21071205,00.html](http://www.ew.com/ew/gallery/0,,20538989_21071205,00.html)に掲載。



Image by Matthew Yohe, from Wikimedia Commons  
[http://commons.wikimedia.org/wiki/  
File:Steve\\_Jobs\\_Headshot\\_2010-CROP.jpg](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Steve_Jobs_Headshot_2010-CROP.jpg)

世界は記号論化したのに、

記号論は**なぜ死んだか？**

そして、

ひとは、**何を、なぜ、**

**考えられなくなったのか？**

記号論は一度死んだ学問ですが、  
生まれ変わると、  
とても大きな可能性が約束されています

「ことばの知/文字の知」  
から  
「記号の知/メディアの知」へ

著作

記号の知/メディアの知  
日常生活批判のためのレッスン

石田英敬 著

東京大学出版会 2003年刊 A5判 400頁

定価（本体価格 4200円＋税）

ISBN 4130100947

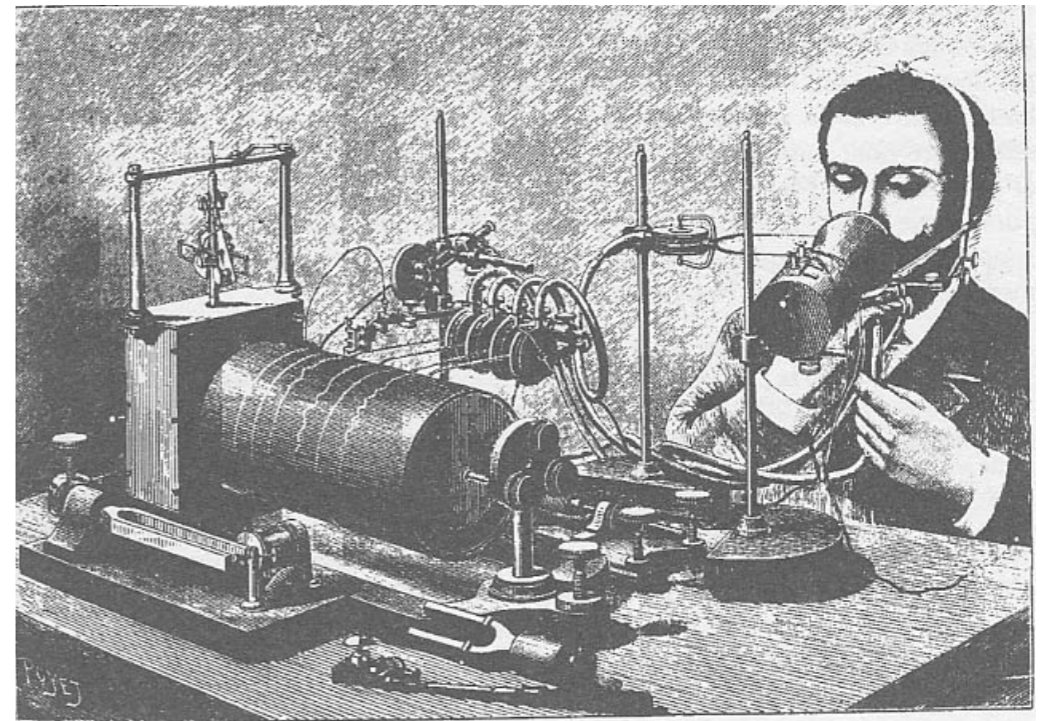
言語は観念を表現する記号のシステムであり、その点で、文字法とか、手話法とか、象徴儀式だとか、作法だとか、軍用信号だとかと比較されうるものである。ただし、それは、これらのシステムのうち、もっとも重要なものなのである。そこで、社会における記号の生活を研究するようなひとつの学を考えてみることができる。それは社会的な心理学の、したがって一般心理学の一部門をなすであろう。われわれは、これを記号学 (sémiologie、ギリシャ語の sēmeîon —— 「記号 signe」 から ——) と呼ぼうと思う。それは記号がなにから成り立ち、どんな法則がそれらを支配するかを教えるであろう。それはまだ存在しないのであるからどんなものになるかはわからない。しかしそれは存在すべき権利を有し、その位置はあらかじめ決定されている。言語学はこの一般学の一部門にほかならず、記号学が発見する法則は言語学にも適用されるにちががなく、後者はかくして人間的事象の総体のなかで、はっきりと定義された領域に結びつけられることになる。

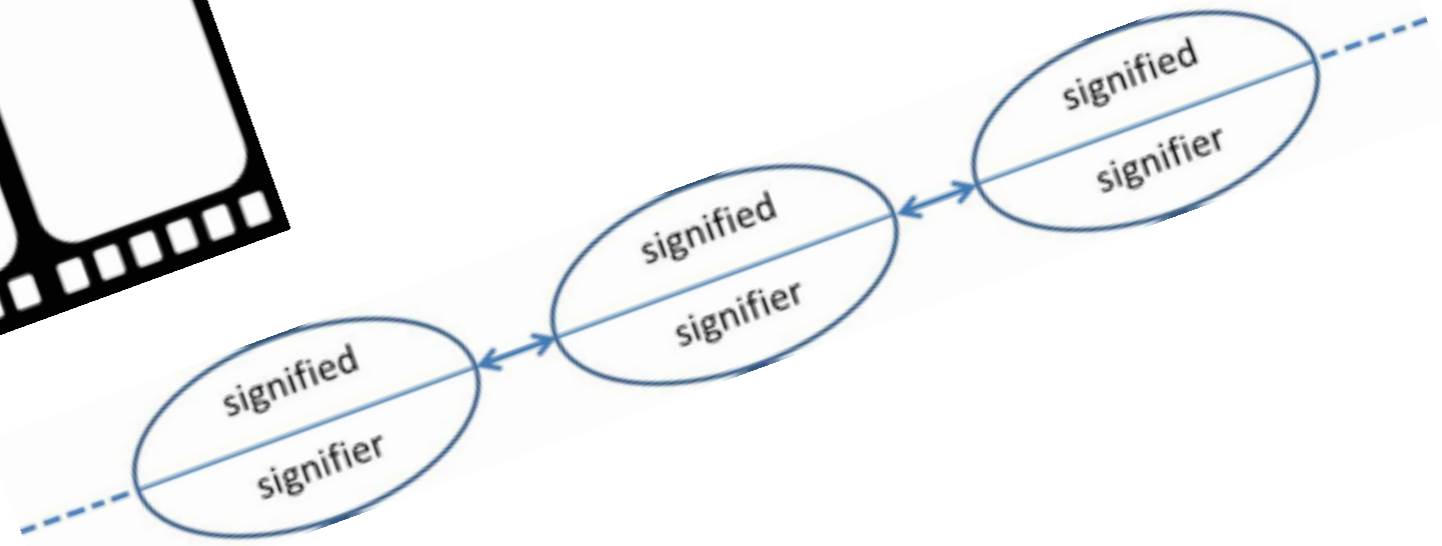
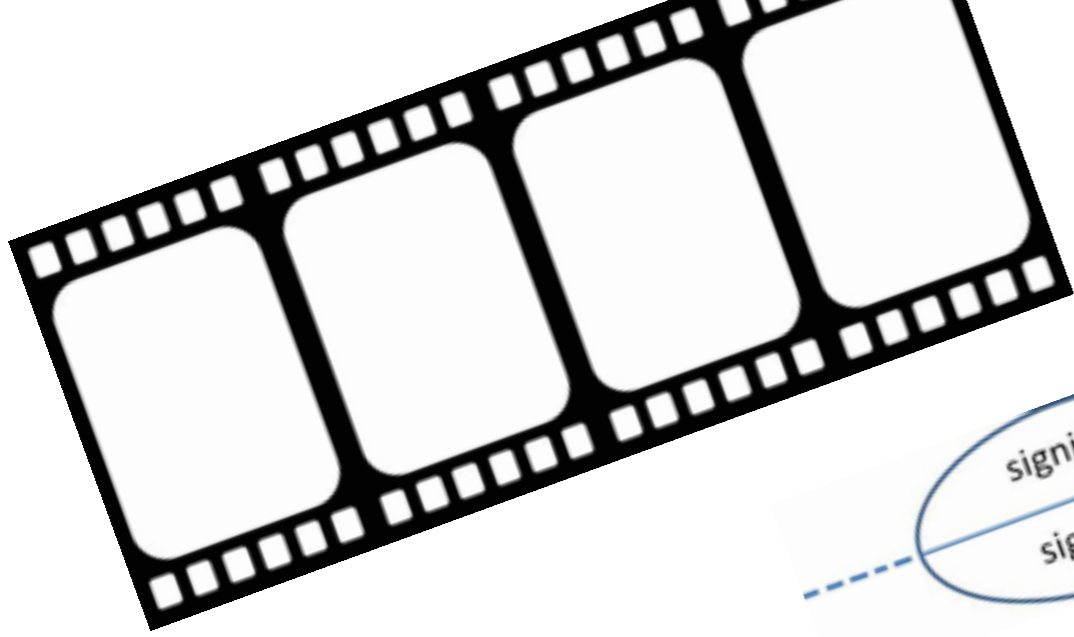
(フェルディナン・ド・ソシュール 『一般言語学講義』)

「音」 / 「声」 / 「かたち」 / 「運動」 etc. を  
「メディア」が書き取るようになった時に、  
「記号」が発見された。

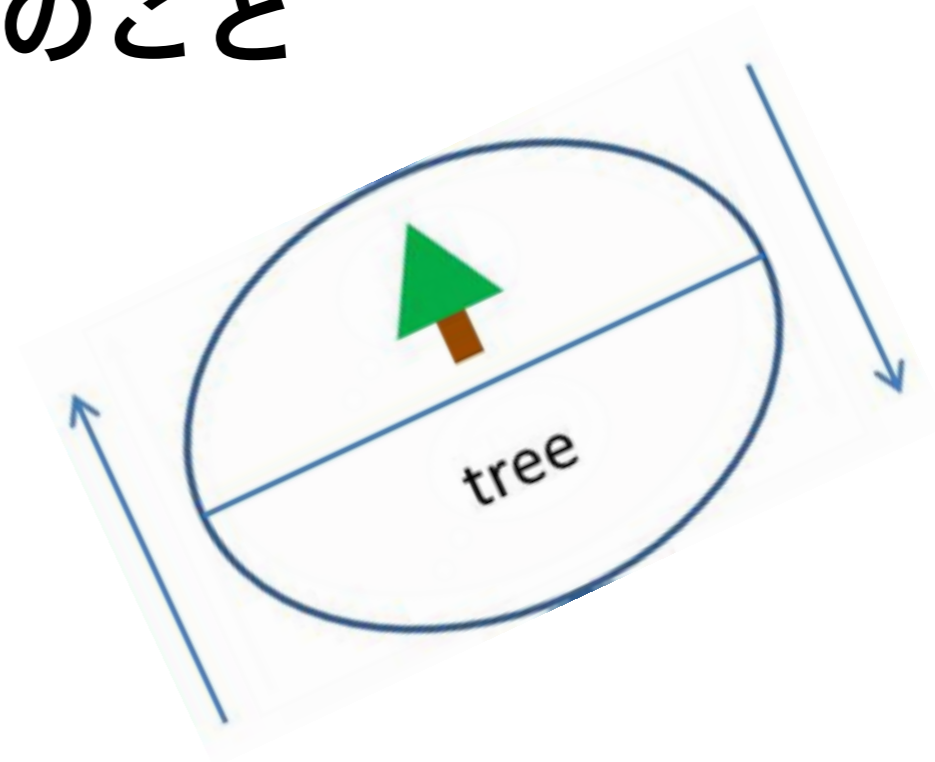
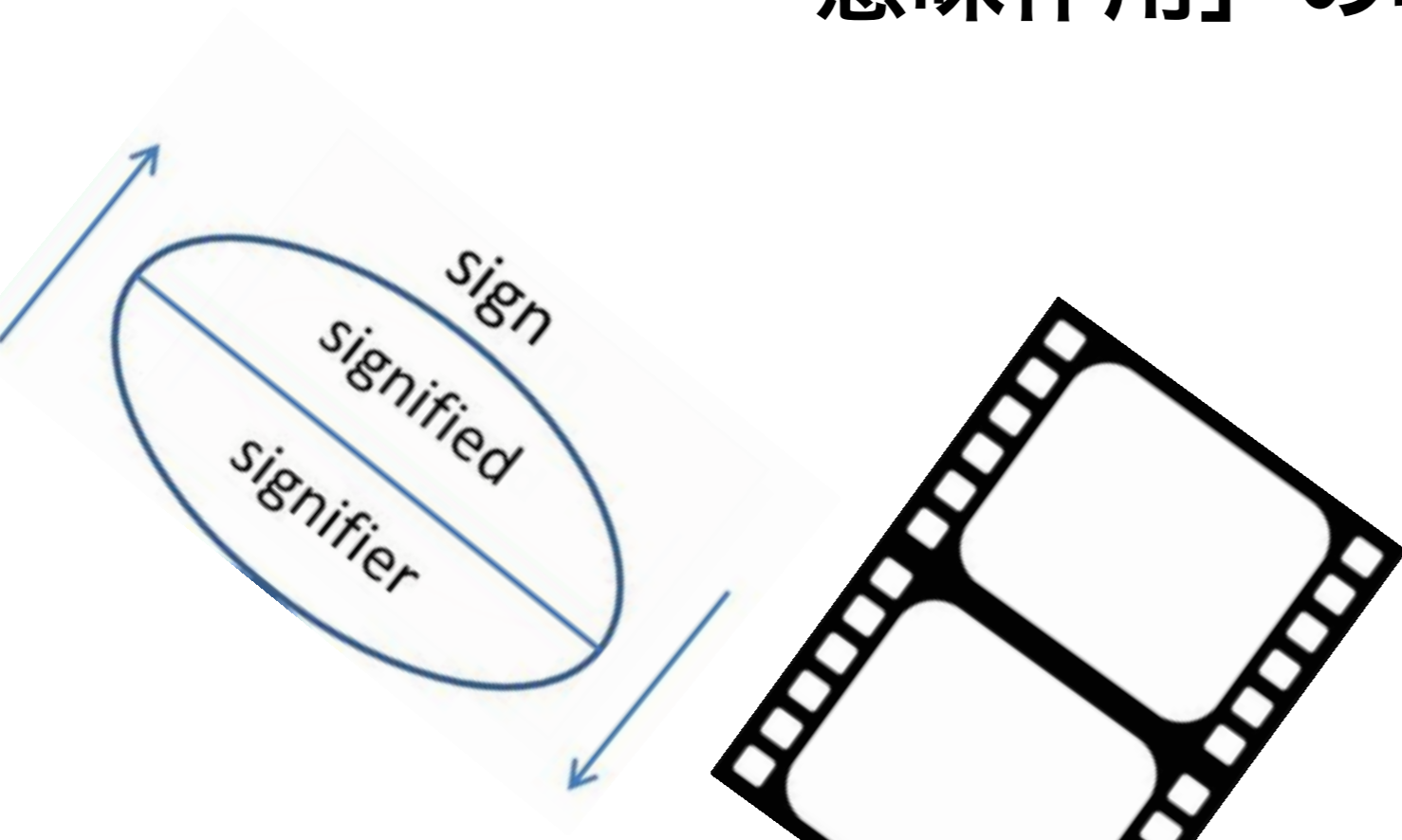


[http://commons.wikimedia.org/wiki/  
File:Muybridge\\_race\\_horse\\_animated\\_184px.gif?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Muybridge_race_horse_animated_184px.gif?uselang=ja)





「記号」とは、このとき、「メディア」が「意味」を  
生み出す  
「意味作用」の単位のこと



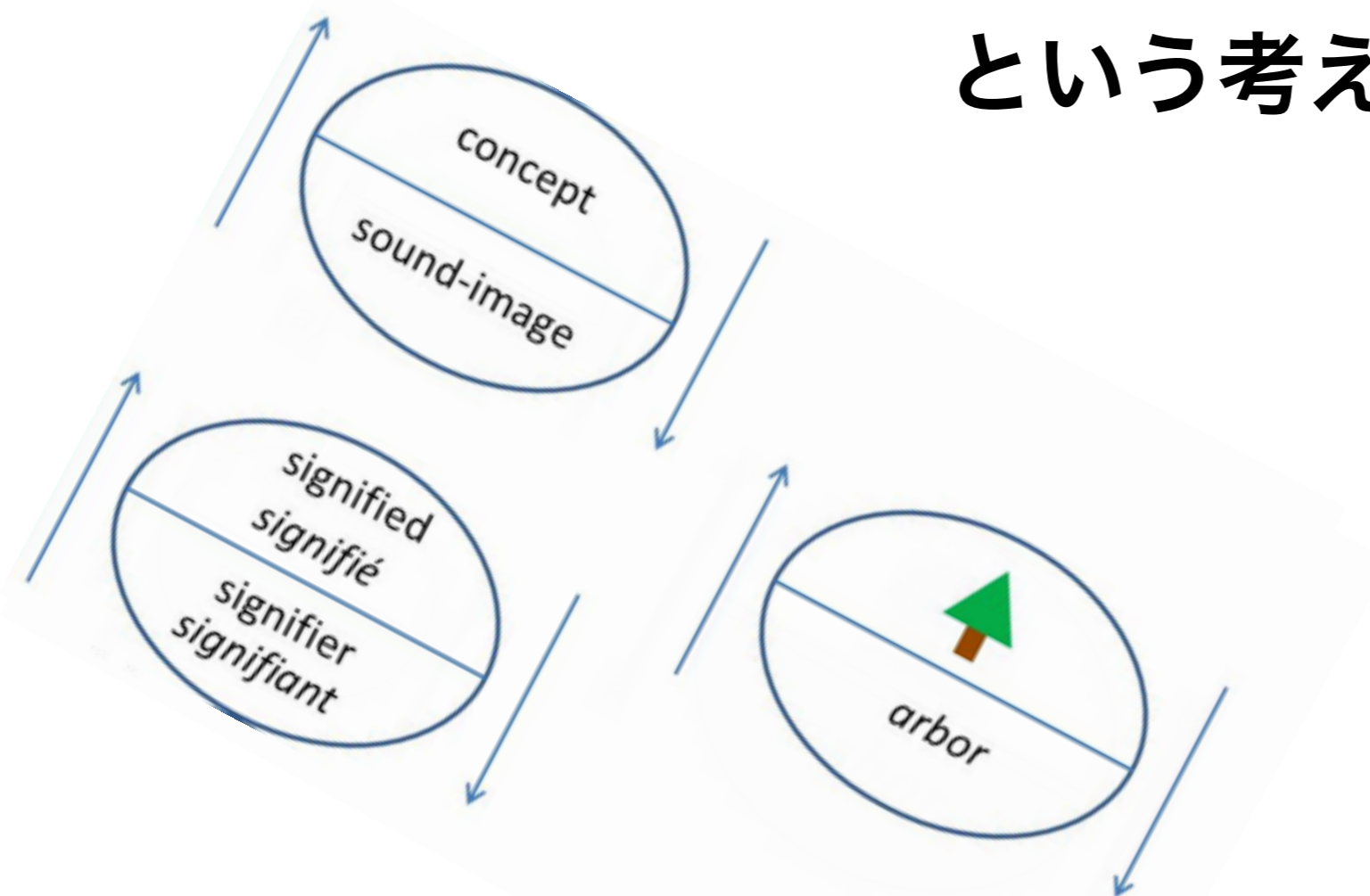
著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

Daniel Chandler "Semiotics for Beginners"  
<http://users.aber.ac.uk/dgc/Documents/S4B/semiotic.html>

11.Encoding/Decoding  
<http://users.aber.ac.uk/dgc/Documents/S4B/sem08c.html>  
1つ目の図

Ferdinand de  
Saussure  
*Cours de linguistique  
generale*

# 「ことばは記号から成り立っている」 (ソシュール) という考え方



Wikipediaより転載

[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Ferdinand\\_de\\_Saussure\\_by\\_Jullien.png?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Ferdinand_de_Saussure_by_Jullien.png?uselang=ja)

# あらゆるところに 「記号のことば」 が書かれていることが分かってきた

著作権の都合により、このスライドに挿入されていた画像を削除しました。

## 参考

Daniel Chandler "Semiotics for Beginners"

<http://users.aber.ac.uk/dgc/Documents/S4B/semiotic.html>

7. Denotation, Connotation and Myth

<http://users.aber.ac.uk/dgc/Documents/S4B/sem06.html>

Claude Lévi-Strauss, "Tristes tropiques" Plon(Paris), 1955.

[http://agoras.typepad.fr/regard\\_eloigne/2009/11/adieu-sauvagesadieu-voyages-tristes-tropiques-de-claude-levistrauss.html](http://agoras.typepad.fr/regard_eloigne/2009/11/adieu-sauvagesadieu-voyages-tristes-tropiques-de-claude-levistrauss.html)

Roland Barthes "Mythologies" Éditions du Seuil(Paris), 1957.

Roland Barthes "Fragments d'un discours amoureux" Éditions du Seuil(Paris), 1977.

ジャック・デリダ

Jacques Derrida

1930年7月15日–2004年10月8日

参考URL

[http://www.dailymotion.com/video/x1suvk\\_jacques-derrida-at-e-g-s-i\\_tech](http://www.dailymotion.com/video/x1suvk_jacques-derrida-at-e-g-s-i_tech)

ジャック・ラカン

Jacques-Marie-Émile Lacan

1901年4月13日–1981年9月9日

参考URL

<http://www.youtube.com/watch?v=874fNhM4QV4&feature=related>

ミシェル・フーコー

Michel Foucault

1926年10月15日–1984年6月25日

参考URL

[http://www.dailymotion.com/video/x9ocql\\_chomsky-noam-chomsky-vs-michel-fouc\\_webcam](http://www.dailymotion.com/video/x9ocql_chomsky-noam-chomsky-vs-michel-fouc_webcam)

## 「文字」の専門家（＝人文学者）たちが、 「記号のことば」を論じ始めた

ウンベルト・エーコ

Umberto Eco

1932年1月5日–

参考URL

[http://www.wat.tv/video/monde-livres-avec-umberto-eco-1ys3g\\_2exyh\\_.html](http://www.wat.tv/video/monde-livres-avec-umberto-eco-1ys3g_2exyh_.html)

ジル・ドゥルーズ

Gilles Deleuze

1925年1月18日–1995年11月4日

参考URL

<http://www.youtube.com/watch?v=biq7dD9qZ1Y>

ロラン・バルト

Roland Barthes

1915年11月12日–1980年3月26日

しかし、「**記号のことば**」を書いているのは  
いったい、「**どのような文字**」なのか？

そう！、それは、「テクノロジーの文字」！

$$\frac{\text{「ことば」}}{\text{「文字」}} = \frac{\text{「記号のことば」}}{\text{「テクノロジーの文字」}}$$

# 新しい「記号の学」

旧「記号の学」 メディア論的転回！

記号学的転回！

アナログ文字  
の登場  
書物の終焉

メディア  
産業の問題！

デジタル文字  
の時代

近世の記号論

現代記号論

情報記号論？

記号の思考

一般記号学の提唱

メディア（記号一般）の学  
= ソシユールの  
最初の展望  
でもある



Wikipediaより転載



Wikipediaより転載

言語モデルの  
記号論 / 構造主義

19~20th 初め

1950年頃

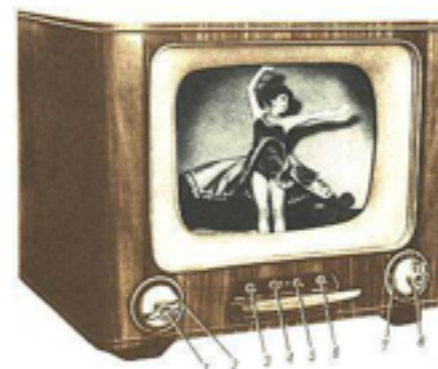
21st のはじまり



Wikipediaより転載  
[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Leibniz\\_Stepped\\_Reckoner\\_mechanism.png](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Leibniz_Stepped_Reckoner_mechanism.png)



Wikipediaより転載  
[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Actor\\_portraying\\_Alexander\\_Graham\\_Bell\\_in\\_an\\_AT%26T\\_promotional\\_film\\_\(1926\).jpg?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Actor_portraying_Alexander_Graham_Bell_in_an_AT%26T_promotional_film_(1926).jpg?uselang=ja)



Wikipediaより転載 <http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:OTVbelweder-front.jpg>



# 【世界の変化】

## 書物（印刷）の時代

→人間の意識を経由したもののだけが文字になる

## アナログメディアの時代

→機械が文字を書く（写真、レコード）。しかしその意味の判断や批判はまだ人間がおこなう（記号論など20世紀の学や文化産業の登場）

## デジタルメディアの時代

→機械が文字を書き、その判断の活動も、機械が代行する→人文科学・社会科学etc..の知の危機：「人間」の「終わり」の予感

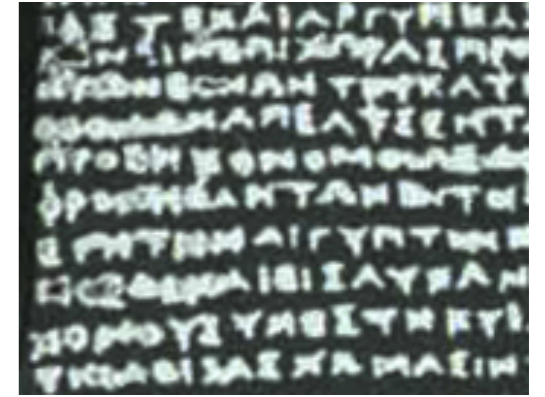
# 文字テクノロジー

## ●文字 **Graph / Graphy**

→graphein (ギリシャ語 γράφειν) (書く)

Wikipediaより転載

[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Handtiegelpresse\\_von\\_1811.jpg](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Handtiegelpresse_von_1811.jpg)



## ●活版印刷術 **Typography**

→typo (型の) - graphy (文字)

+



Wikipediaより転載

+

[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Metal\\_movable\\_type.jpg?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Metal_movable_type.jpg?uselang=ja)  
Attribution:Willi Heidelberg



## ●写真 **Photograph(y)**

→photo (光の) - graph (文字)

## ●レコード (蓄音機) **Phonograph / Gramophone**

→phono (音声の) - graph (文字)

## ●映画 **Cinématographe**

→Cinémato (運動の) - graphe (文字)



# 遠隔テクノロジー

●腕木式通信 テレグラフ **Télégraphe**  
→télé (遠隔の) - graphe (文字)



≠

Wikipediaより転載 <http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Chappel-2.jpg?>

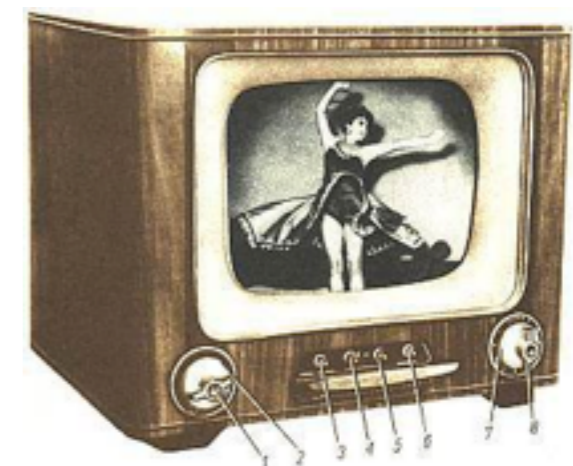
●電話 Telephone  
→tele (遠隔の) - phone (音声)

●テレビ Television  
→tele (遠隔の) - vision (視る)



Wikipediaより転載

[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Actor\\_portraying\\_Alexander\\_Graham\\_Bell\\_in\\_an\\_AT%26T\\_promotional\\_film\\_\(1926\).jpg?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Actor_portraying_Alexander_Graham_Bell_in_an_AT%26T_promotional_film_(1926).jpg?uselang=ja)



Wikipediaより転載 <http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:OTVbelweder-front.jpg>

## 石田の第一命題

**「記号」は「テクノロジーの文字」によって書かれている！**

## 石田の第二テーゼ

**「記号」は「意味」と「意識」を生み出す！**

## 石田の第三テーゼ

私たちは、「テクノロジーの文字」を「読む」ことができない！

## 石田の伴立命題 1

**「メディア」とは、「テクノロジーの文字」の問題だ！**

# 「技術的無意識の時代」

カメラが写真を撮る本当の瞬間を、  
人間は見ることはできない

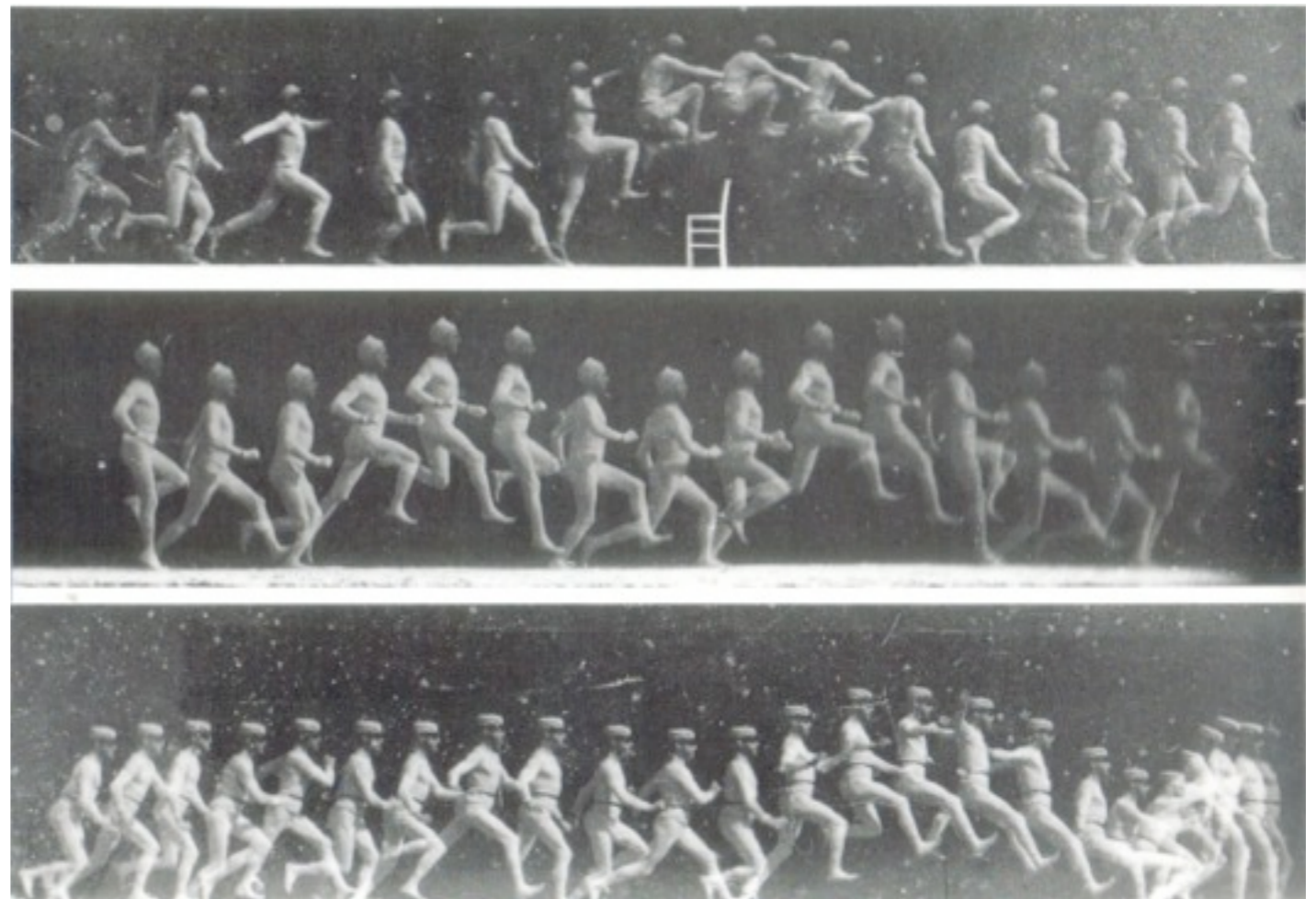
著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

《サン=ラザール駅裏、パリ、フランス》

1932年

Behind Saint-Lazare station, Paris, France,  
1932

(C) Henri Cartier-Bresson / Magnum Photos



Étienne-Jules Marey

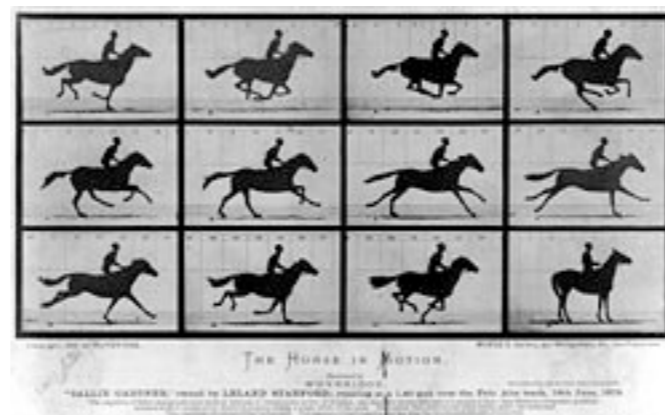
現代人は、写真を見て「過去」を「思い出す」。

では、

人は「見えなかった時」を「思い出す」のだろうか？

[sous la direction de] Pierre  
Bourdieu, *Un art moyen:  
essai sur les usages sociaux  
de la photographie*, Minuit,  
1965.

映画の一コマ一コマを人間は見ることはできない、  
だから、  
人には「動き」が見える  
（「視えないから見える」という原理）



Wikipediaより転載

[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:The\\_Horse\\_in\\_Motion.jpg?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:The_Horse_in_Motion.jpg?uselang=ja)



Wikipediaより転載

<http://commons.wikimedia.org/wiki/>

[File:Muybridge\\_race\\_horse\\_animated\\_184px.gif?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Muybridge_race_horse_animated_184px.gif?uselang=ja)

カメラが写真を撮る本当の瞬間を、人間は見ることはできない

1コマ1コマ見ることができないから動きが見える

## 「技術的無意識の時代」

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

マイケル・ジャクソン  
「スリラー」の一場面  
Michael Jackson - *Thriller*



「意識」が「機械」（＝「メディア技術」）  
によって産み出される時代

## 「文化産業」の時代

「技術的無意識」を基盤として  
「意識」が生産される

# 相手がいなくても、常にすでに、音声がかえってしまおう！



# 技術とコミュニケーションの問いへ.....

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

『藤子・F・不二雄 大全集 オバケのQ太郎（3）』

小学館、2009年

「もしもし長電話」 pp.368-380

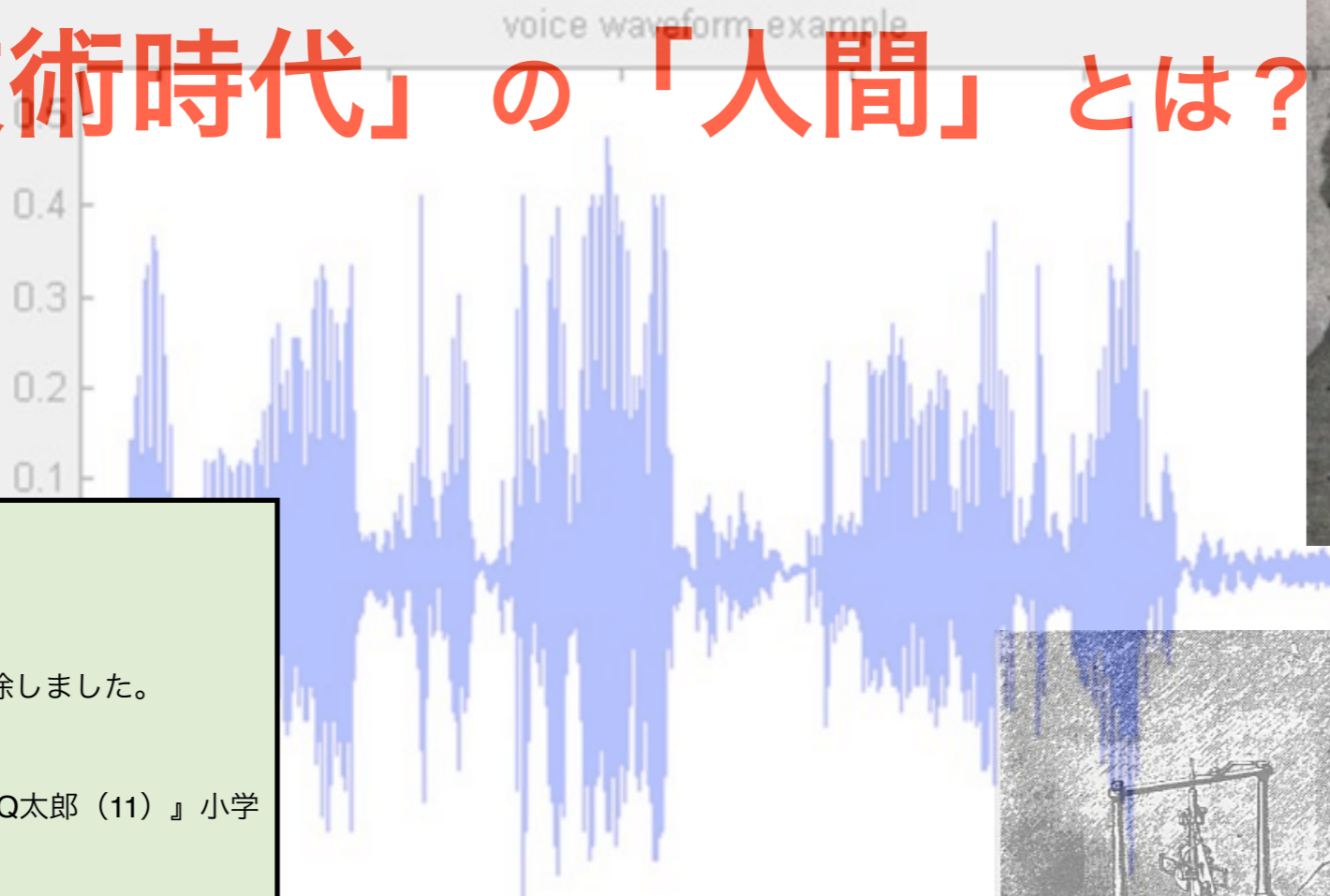
p.370 6コマ目～10コマ目

# 「亡霊」 (spectre) と「見せ物」 (spectacle) の時代

Wikipediaより転載

[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Actor\\_portraying\\_Alexander\\_Graham\\_Bell\\_in\\_an\\_AT%26T\\_promotional\\_film\\_\(1926\).jpg?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Actor_portraying_Alexander_Graham_Bell_in_an_AT%26T_promotional_film_(1926).jpg?uselang=ja)

## 「複製技術時代」の「人間」とは？

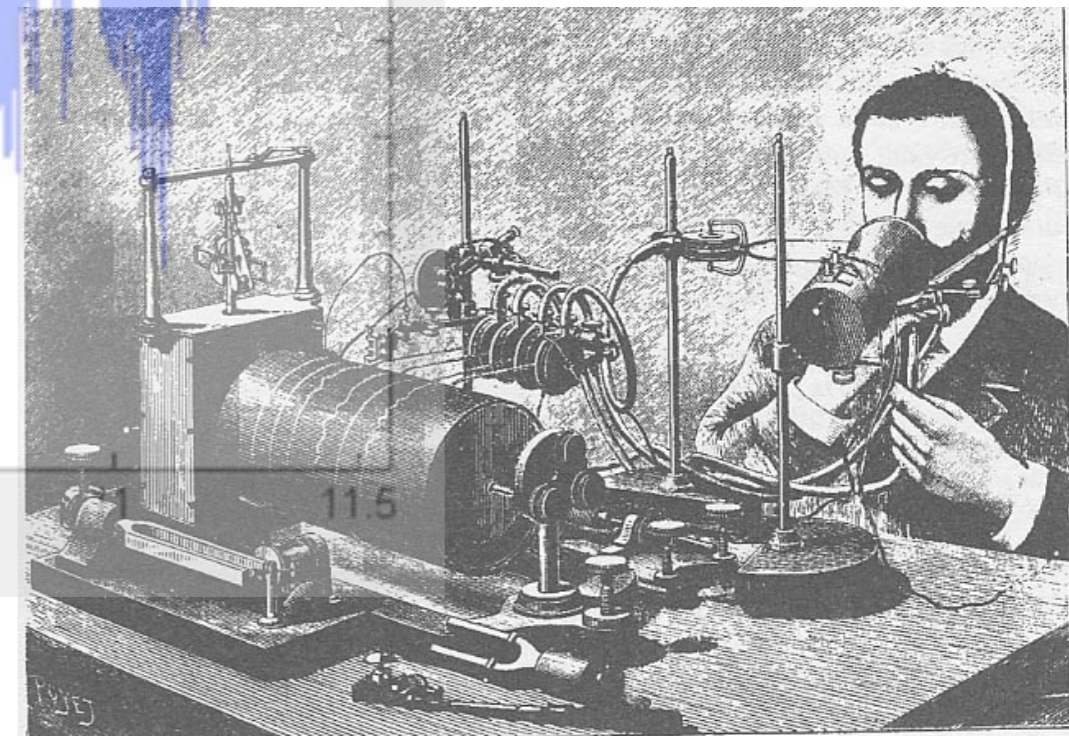


著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

『藤子・F・不二雄 大全集 オバケのQ太郎 (11)』小学館、2011年  
「なんでも記録しよう」 pp.122-134  
p.124 3コマ目

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

『藤子・F・不二雄 大全集 オバケのQ太郎 (11)』小学館、2011年  
「なんでも記録しよう」 pp.122-134  
p.124 4コマ目



背景：Wikipediaより転載

[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Voice\\_waveform\\_and\\_spectrum.png?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Voice_waveform_and_spectrum.png?uselang=ja)

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を削除しました。

Herbert Zettl, *Television Production Handbook*,  
7th edition, Wadsworth, 1999, p.29

# Televisionの原理



NHK放送博物館所蔵

高柳健次郎 1926

わたくしといふ現象は  
假定された有機交流電燈の  
ひとつの青い照明です

(あらゆる透明な幽霊の複合体)

風景やみんなといっしょに  
せはしくせはしく明滅しながら  
いかにもたしかにともりつづける  
因果交流電燈の  
ひとつの青い照明です

(ひかりはたもち、その電燈は失はれ)

(宮澤賢治「春と修羅 序」1924年刊)

# 今では、人間ではなく 機械が歌っている...

著作権の都合により、ここに挿入されていた画像を削除しました。

鏡音リン／炉心融解

<http://www.youtube.com/watch?v=LGxLbCQQkjI>

Morel's Panorama - Vidéo Dailymotion

文字と情報

[beyond pages - YouTube](#)

# 「情報」とは何か？

## 1 「情報」が語られ始めた時代

### 19世紀の通信

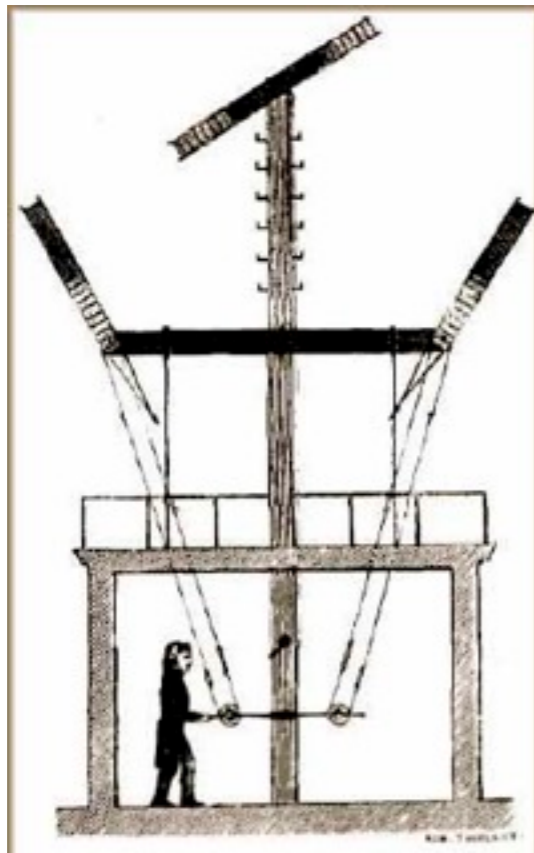
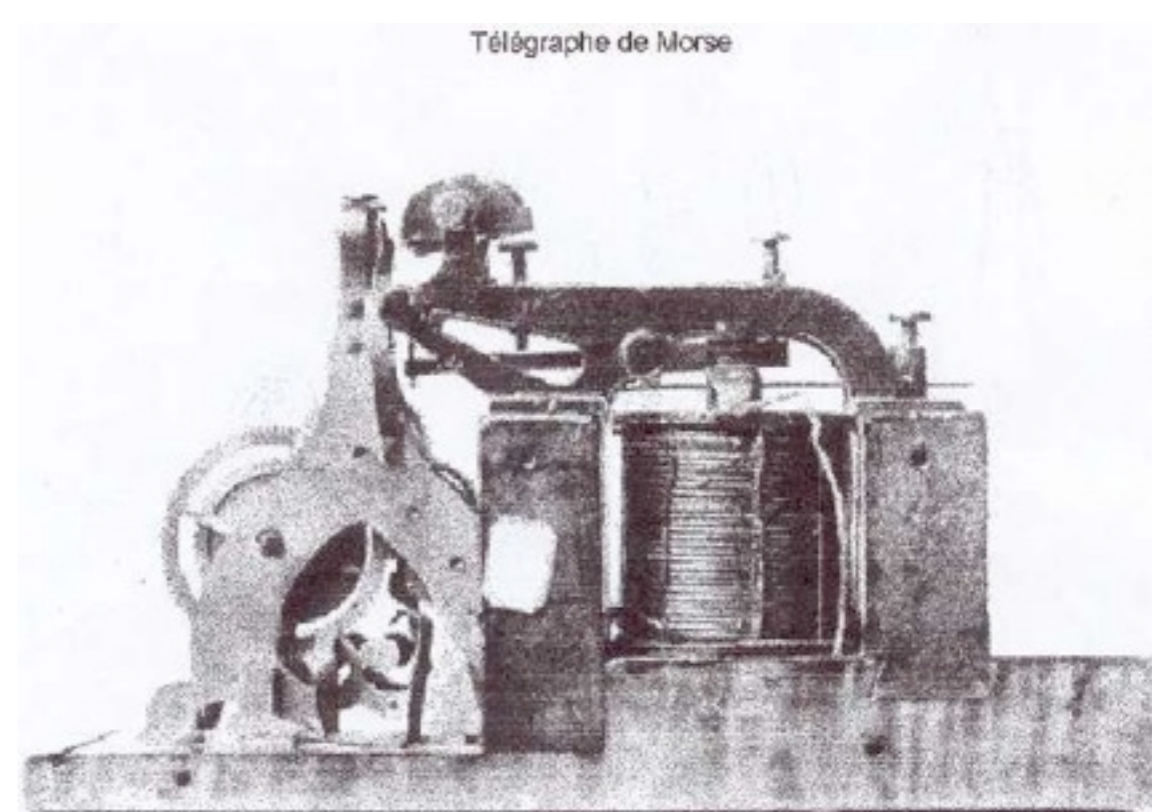


Image 13  
<http://time-az.com/main/detail/40477>



「情報とは、敵と敵國とに関する  
我智識の全體を謂う」

(森鷗外「大戦学理」1888)

## 2 Informationの時代

「シャノン・モデル」以後